

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報第9号を発表したので送付します。

平成29年度農作物病害虫発生予報第9号

平成29年9月29日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では, 発生圃場率が9.1%, 株当たり寄生虫数が0.0頭と, 平年(32.8%, 1.5頭)に比べて低い。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特に県西部地域の10月中旬以降に収穫を迎える作型について, 発生が認められた場合は, 液剤等により防除を行う。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の温州ミカンの巡回調査では, 発生圃場率が25.0%, 寄生葉率が0.5%と, 平年(60.0%, 4.1%)に比べて低い。

(2) 9月28日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 十分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では, 発生圃場率が16.7%, 発病果率が0.2%と, 平年(17.7%, 0.4%)並の発生である。

(2) 7月6半旬に行った新梢における発病調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.0%, 新梢発病率が0.02%)。

(3) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 9～11月の降雨は果実の被害を激しくするため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

果樹共通

カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 7月第4半旬～8月第2半旬における勝浦町及び上板町での予察灯調査で、特にツヤアオカメムシが平年に比べて約2.5～3.0倍誘殺されたことから、8月18日付けで注意報を発令した。

その後、勝浦町では8月第5半旬までは平年に比べてツヤアオカメムシの誘殺数が多かったが、9月以降は、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ共に平年並みで推移している。

上板町では8月第3半旬以降、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ共に誘殺数が激増し、8月第3半旬～9月第3半旬の両種合計数は1,253頭と平年(195頭)の約6.4倍誘殺された。

[予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平年	2017年	2016年	2015年	2014年	平年
9.1	11	308	7	52	65	63	22	2	23	10
9.2	64	230	6	7	62	32	23	0	3	8
9.3	63	133	8	16	98	61	8	0	18	10
9.4	110	137	12	12	83	14	1	0	26	12
9.5		277	22	62	126		3	0	33	19
9.6		631	11	33	141		15	0	17	24

[予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平年	2017年	2016年	2015年	2014年	平年
9.1	23	180	21	167	79	174	48	6	40	19
9.2	105	518	15	48	75	124	36	1	5	12
9.3	66	197	24	20	67	127	7	0	9	10
9.4	59	183	20	7	81	37	5	4	3	8
9.5		133	39	33	54		10	0	8	7
9.6		216	14	17	41		4	0	2	2

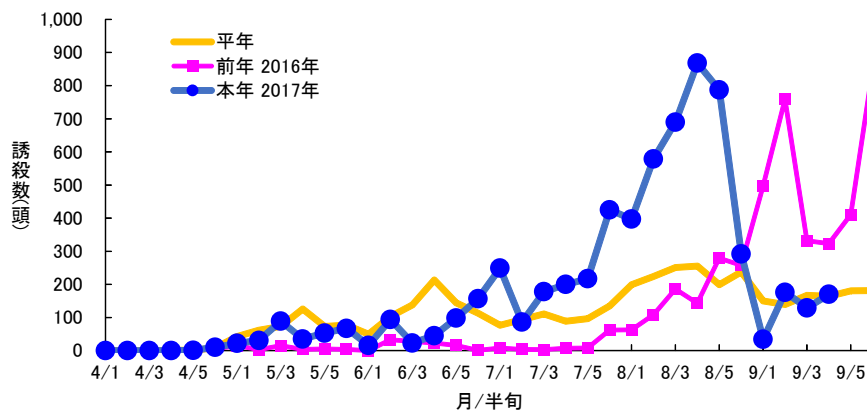


図1 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

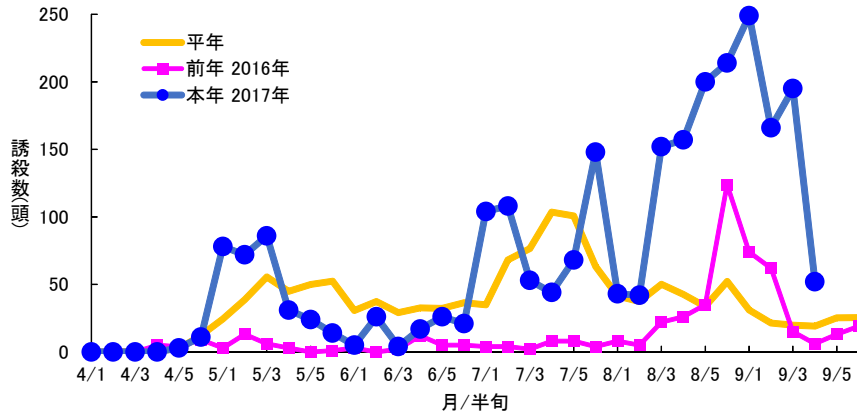


図2 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

(2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

III. 野菜

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が70.6%と、平年(41.6%)に比べてやや高いが、寄生株率は3.6%と、平年(6.6%)に比べてやや低い。
- (2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が17.6%、10株当たり寄生幼虫数及び蛹数が0.1頭と、平年(14.2%, 0.1頭)並の発生である。
- (2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

モンシロチョウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が5.9%、10株当たり寄生幼虫数が0.0頭と、平年(10.2%, 0.1頭)並の発生である。

(2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除効果が見られなくなるので、定期的に薬剤を散布して予防する。

(2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ (8月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が77.8%、50株当たり寄生虫数が6.7頭で、平年(27.1%、2.2頭)に比べて高い。

(2) 6月第4半旬から7月第6半旬におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)が、平年に比べて多かったことより、8月2日付けで注意報を発令した。その後も、誘殺数は平年に比べて多く、9月第1半旬から第5半旬の誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、1,944頭と平年(572頭)の約3.4倍である。

(3) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。

(2) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ (9月6日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 8月第6半旬及び9月第1半旬の巡回調査で、発生圃場率、被害度ともに平年より高かったため、9月6日付けで注意報を発令した。その後、9月後半の巡回調査でも、発生圃場率が88.9%、被害度が9.7と、平年(18.5%、0.3)に比べて高い。

(2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(94.4%)並の発生であるが、被害度は7.1と、平年(24.9)に比べて低い。
 - (2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワ－の巡回調査では、発生圃場率が76.5%と、平年(36.0%)に比べてやや高いが、寄生株率は6.8%と、平年(5.4%)並の発生である。
 - (2) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、平年に比べやや少なく推移している。
 - (3) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

シロイチモジヨトウ (8月2日付けで注意報発令中)

- 1) 予報内容
発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワ－の巡回調査では、発生圃場率が47.1%と、平年(17.3%)に比べてやや高いが、寄生株率は1.6%と、平年(1.3%)並の発生である。
 - (2) 6月第4半旬から7月第6半旬におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)が、平年に比べて多かったことより、8月2日付けで注意報を発令した。その後も、誘殺数は平年に比べ多く、9月第1半旬から第5半旬の誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、1,944頭と平年(572頭)の約3.4倍誘殺である。
 - (3) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行う。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平年	2017年	2016年	2015年	2014年	平年
9.1	267	507	386	205	391	399	266	29	15	98
9.2	168	302	486	151	370	498	163	45	20	126
9.3	287	262	310	122	359	463	445	46	17	146
9.4	303	440	222	237	373	379	330	55	25	106
9.5	330	531	223	221	416	205	235	27	18	96
9.6		452	315	281	453		347	17	10	106

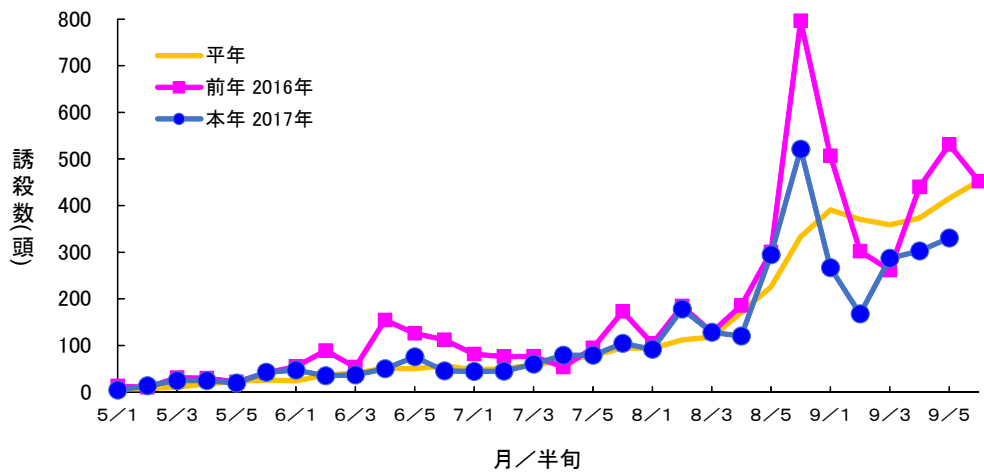


図3 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の6地点平均

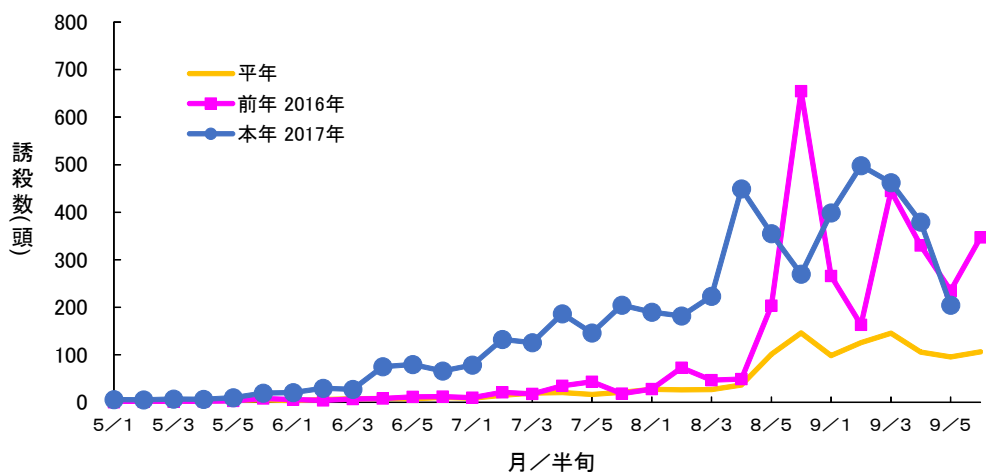


図4 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の6地点平均

オオタバコガ (7月6日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第4半旬～第6半旬のフェロモントラップ調査や夏秋ナス圃場での発生が平年に比べて多かったことより、7月6日付けで注意報を発令した。その後も、フェロモントラップへの誘殺虫数が平年に比べて多く、8月第2半旬及び第6半旬にはピークを迎え、9月も第1半旬～第5半旬まで235頭と、平年(99.2頭)の約2.4倍となっている。
- (2) 9月28日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

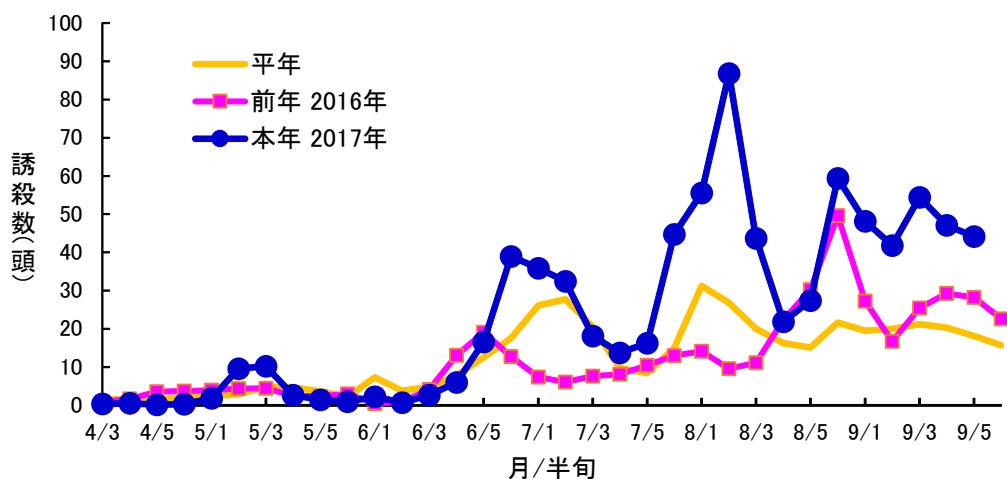


図4 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
 ※阿波市、三好市、東みよし町、石井町の7地点平均

IV. その他

1. ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期である。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生を確認したら速やかに防除すること。
2. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
 URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。